

いげのやまこふん
恵解山古墳 特集号



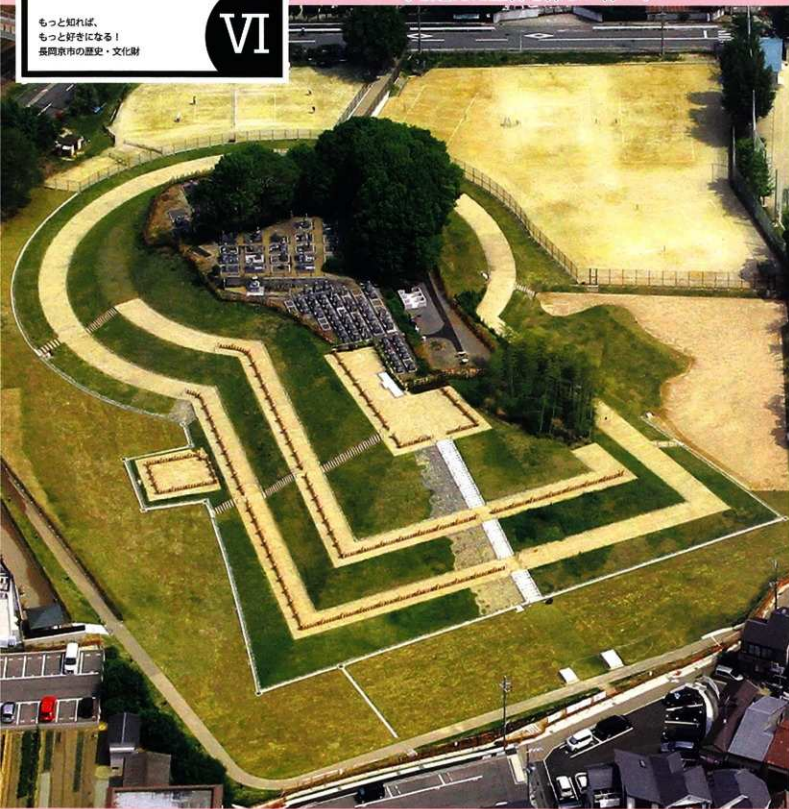
Moshi- Mosu

VI

もっと知れば、
もっと好きになる！
長岡京市の歴史・文化財

Discover the hidden treasures

時を超えた宝物を探しに行こう



7 stories
8 visions
4 policies

歴史文化×めぐる。
Moshi-Mosu

いにしへの都、長岡京。そこには、古代の人々の暮らしや文化が色濃く残る、貴重な文化財が眠っています。謎に包まれた古墳、荘厳な寺院、美しい仏像たち…。歴史の教科書でしか見たことのない世界が、今、あなたの目の前に広がります。さあ、長岡京の知られざる魅力を、あなた自身の目で発見しませんか？

■ Take Free ■

見① 儀式の場 作り出し

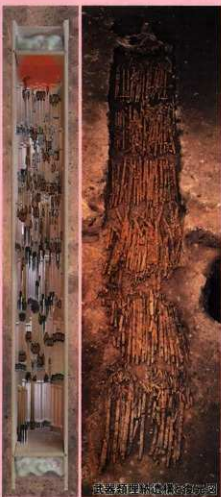
前方部のくびれ部に近い位置には、東西2箇所に作り出しが設けられています。作り出しは葬送に伴う儀式の場です。恵解山古墳では、西と東で大きく形状が異なり、それぞれ違う役割をもっていたようです。西作り出しは四角形でステージのようにつくりです。北隣の埴輪列が食い違っており、そこから出入りしたものとされます。一方、東作り出しの形は整っておらず、斜面もゆるやかにつくられています。小石がしきつめられており、そこで水鳥形埴輪が出土したことから、水辺を表現したものと考えられています。



見② 大発見！鉄製武器の埋納遺構

昭和55年(1980)、前方部の墳頂で700点にのぼる鉄製武器が出土しました。幅0.8m程度、長さ6.5m以上の木箱に刀や剣、楯などと共にも量の矢が納められていました。木でできた部分は腐って無くなってしまったため、発掘調査で出土したのは刀身や楯などの一部のみです。特に楯が多く、全体の約7割を占めています。量だけでなく種類も豊富で、形から14種類に分類されています。

副葬品だけを納めた施設は全国的にも珍しいものですが、日本を代表する古墳群である百舌鳥・古市古墳群(大阪府)を構成する大主墓にはよく似た埋納施設がいくつかみられます。当時重量であったはずの鉄製品が多量に出土したことは、乙訓地域を支配した王の権力の強大さを物語るものです。



見③ 古墳を飾った葦石と埴輪

現在の公園では、古墳の斜面には笹や芝が植えられていますが、築造された当初は全面が葦石で覆われていました。葦石は、表面の土砂が雨で流れたり、崩れたりするのを防ぐためのものと考えられています。発掘調査では、葦石のなかに仕切りのような石の列があることがわかりました。作業のためのブロック割りでしょうか、あるいは見た目を意識したデザインだったのかもしれません。使用された石は、小泉川の川原から持ち込まれたものです。現在の古墳は自然に溶け込む色合いです。築造当初は灰色や白色でした。明らかに人工物とわかるその姿は、周囲に比べひとくま目立つ存在だったでしょう。



墳丘は3段につくられ、各段に設けられた平坦面には埴輪が並べられていました。発掘調査で見つかった埴輪の大きさと、地面に立てられた間隔から計算すると、古墳全体では1800個を超える埴輪が並べられていたこととなります。公園内ではそのうち約600個の埴輪が復元されています。最も多いのはシンプルな筒形の円筒埴輪で、その間に朝顔形埴輪や菱型埴輪、蓋形埴輪が立てられています。その他にも、発掘調査では家、盾や甲冑、鶏や水鳥の形をしたものなど様々な埴輪が出土しました。器材や武器などは王の権威を示すものと考えられます。鶏は太陽が昇る夜明けに鳴く習性から、神聖視されていました。恵解山古墳の埴輪には、当時の人々の思想や世界観、願いが込められているのでしょ。



見④ 恵解山古墳公園の埴輪はオーダーメイド

今、古墳に並ぶ埴輪はどれも同じに見えるかもしれませんが、ところが、実はとてもこだわって作られています。実際に出土したのものをもとに、種類・大きさやつくり方を確認しながら設計し、さらに埴輪の焼き方である「野焼き」によってできる「黒班」(火の回りの違いで、赤く焼けば黒くなった部分)までも表現しています。よく見ると微妙に高さも違い、個性豊かです。有田焼で知られる佐賀興の工場に発注し、何度も現地に足を運んで、出来上りを確認したそうです。恵解山古墳公園のみられる埴輪は、ここで並べられるために作られた唯一無二の埴輪です。大切にしてくださいね。



見⑤ 戦の舞台となった恵解山古墳

乙訓を治めた王が古墳に葬られてから約1000年ののち、恵解山古墳は再び歴史の舞台となります。天正10年(1582)6月の山崎合戦では、明智光秀が恵解山古墳に本陣を置いたのではないかと考えられています。

恵解山古墳は後の時代に、墳丘の形状が大きく改変されていることが発掘調査で明らかになっています。墳丘の改変は古墳全体に及んでいますが、後円部では右の写真のように3段の平坦面が造成され、陣形の曲輪と考えられています。最も高い位置にある曲輪を本陣とみれば、明智光秀はここで戦艦を指揮し、羽柴秀吉の軍勢と対峙したのかもしれません。前方部でも、曲輪とみられる平坦面や階段状の段差などが、古墳の盛土を削り取ってつくられていました。

古墳および周辺の発掘調査では、戦国時代の土器や火縄銃の玉が出土しています。防衛施設と考えられる大規模な堀も複数確認されていて、当時の戦いの様子をうかがい知ることができます。



Topic!

令和6年10月26日に、恵解山古墳公園は開園10周年を迎えます。
恵解山古墳の発掘・整備に関わっていただいたたくさんの先人たちの成果を、未来を担う子供たちに知ってもらい、継承していきます。

開園10周年記念イベント

いげのやまフェスタ

～響け♪古墳で奏でるハーモニー♪～

開園10周年を記念し、恵解山古墳で記念イベントを開催します。演奏会や演武など、古墳での特別な体験をお楽しみください!

イテオン

- 立命館中学校・長岡第二中学校吹奏楽部による演奏会
- 丹波亀山鉄砲隊による演武
- 京都長岡京おもてなし武將隊つつじによる演武

他にも、飲食・物販ブースや歴史体験ワークショップなどもありますので、ぜひお楽しみください。
当日のクイズラリー参加者先着300名様には、ソフトドリンク無料券をプレゼント!



11/2
開催



フェスタの
詳細はこちら



スタンプラリーの
詳細はこちら

ACCESS

アクセス

恵解山古墳は長岡京市南部の勝竜寺・久貝に所在し、昭和56年に国の史跡に指定されました。平成28年には恵解山古墳を含む、乙訓に所在する古墳群が新たに乙訓古墳群として史跡指定されています。

恵解山古墳は古墳時代中期前半（5世紀前半）に築かれた、乙訓地域最大の前方後円墳です。後円部の高さは10.4m、墳丘の長さは128mに及びます。墳丘の周囲には、盾形の濠がめぐっていました。

公園として整備されてからは日常の散歩コースとして、歴史文化を知る学びの場として、市内の文化財をめぐる拠点のひとつとして、広く親しまれています。



『Moshi-mosuV1』vol.26 Autumn

バックナンバー
はこちら!

